

表4. Apgar score の分布 (%)

	単胎	双胎	
		第1子	第2子
10	43.7	40.8	28.9
9	38.2	32.7	34.4
8	10.8	10.2	15.6
7	2.8	5.1	6.7
6	1.8	2.0	4.4
5	1.0	3.1	3.3
4	0.5	3.1	2.2
3	0.4	2.0	3.3
2	0.3	1.0	1.0
1	0.2	—	—
0	0.3	—	—
対象件数	14,151	98	90

表5. 周産期の児死亡 (%)

	単胎	第1子	第2子
分娩前	0.39	1.89	3.77
分娩中	0.19	—	—
死亡時期不明の死産	0.04	0.94	0.94
早期新生児死亡	0.56	1.89	6.60
対象件数	14,699	106	106

B-3. 妊娠中使用薬剤と先天異常

横浜市立大学医学部小児科

植地正文

A 妊娠期間中の薬剤服用状況について

(1) 薬剤服用率

双胎児を出産した母親が、妊娠期間中に少なくとも1剤以上の薬剤(5桁コード)を服用していた率は83/106(78.3%)におよび、単胎生産児の薬剤服用率(72.6%)と比較しても高率である。このことは、双胎という特殊な病態のために母体に障害が生じ、その結果、治療のために薬剤を服用していたとも考えられる。次に薬剤(5桁コード)の服用状況を見ると、表1のように1剤だけが21.7%、2剤が16.0%、3剤が15.1%と多く、次いで5剤、4剤、6剤の順になっていた。

(2) 薬剤服用状況

妊娠期間のどの時期にどの薬剤を服用していたかについて分析し、表2、3にまとめてみた。妊娠期間のうち、前期(妊娠1~4カ月)、中期(5~7カ月)、後期(8~10カ月)に区分し、

薬剤は5桁コードで分類した。その結果、妊娠前期では117AI(精神神経用剤-ペルフェナジン)、124JI(鎮痙剤-ダクチルOBなど)、247JM(女性ホルモン剤-配合剤)、318AE(ミネラル等添加総合ビタミン剤)の使用が目立ち、中期では318AE(ミネラル等添加総合ビタミン剤)、326JV(総合造血剤)の使用が目立つ。また、後期では124JI(鎮痙剤)、213ID、213IH(利尿剤)、322CK、322CX(鉄剤)、326JV(総合造血剤)、219IQ(その他の循環器用薬-ズファジラン)の使用が目立つ。前期ではつわり、流産などのアクシデントの多い時期であるので、その使用については想定できる。中期以降、造血剤、ビタミン剤の使用が目立つのも、双胎という異常状況下で貧血、VB₁欠乏症などをふせぐための投与と考えられる。単胎生産児のときも同様な傾向はみられたが、双胎では、ことに後期で利尿剤の使用が目立つ。これも双胎

によっておこる母体の障害—妊娠中毒症のための治療薬と考えられる。

B 双胎と先天異常

(1) 双胎における先天異常発生率

薬剤服用の有無による先天異常発生率をみると、薬剤を服用した群では24/83 (28.9%)、薬剤を服用しなかった群では8/23 (34.8%)となり、逆に薬剤を服用しなかった群に多くなっているが有意差はなかった。(x² = 0.154) このことは薬剤以外の要因で先天異常の生じてくることが想定されよう。

(2) 双胎における先天異常の分布

双胎 106 組にみられた先天異常をピックアップ

してみると、表4のようになる。数の上からはそけいヘルニアが目立つ。さらに双胎の第1子と第2子にわけて先天異常の分布をみたのが表5である。区分(I)は第1子、第2子とも先天異常をもっているもの、区分(II)は第1子に先天異常があり、第2子にはないもの、区分(III)は第2子に先天異常があつて第1子にないもの、区分(IV)は第1子、第2子ともに先天異常のないものとしてわけてみた。

(3) 代表的な先天異常の薬剤使用状況

数の多い「そけいヘルニア」について分析した。その成績は表6にまとめてあるが、どの薬剤が問題であるか、これからは結論づけられない。

表1. 双胎と服用薬剤数

(106組)

妊娠期間 服用薬剤数	0	1	2	3	4	5	6	7以上
双胎数	23	24	17	16	6	6	5	9

表2. 薬剤 使用状況

薬剤コード (5ケタ)	薬品名	数	妊 娠 期 間		
			前 期	中 期	後 期
114 BA	アスピリン	1			1
114 CA	アミノピリン	1	1		
114 IA	イブフェナック	1		1	
114 JB	ピラゾロン・ピラピタル・フェネチジン	1			1
114 JI	解熱鎮痛剤 (その他の配合剤)	1	1		
114 XX	解熱鎮痛剤	5		4	2
116 IA	鎮 量 剤	1	1		
117 AI	精神神経用 (パーフェナジン)	7	7		
117 CC	ジアゼパム	2	2		
124 IH	鎮痙剤 (ダクチラン)	2		1	2
124 DC	臭化ブチルスコポラミン	1		1	
124 JI	鎮痙剤 (配合剤)	10	4	2	5
141 AC	抗ヒスタミン (タンニン酸・ジフェンヒドラミン)	1			1
141 BA	マレイン酸クロルフェニラミン	1		1	
141 IK	マレイン酸ジメチンデン	1	1		
211 ED	カフェイン	1	1		
211 EB	アナカ	1			1
213 ID	クロレキソロン	9		1	9
213 IB	エタクリン酸	1			1
213 EG	尿 素	4	1	1	4
213 IH	フロセミド	19		2	19
213 XX	利 尿 剤	1			1
214 DE	デセルビジン	1			1
214 ID	ダイハイドロエルゴットアルカロイド	2			2
219 IQ	ズファジラン	8	1	2	5
219 ID	塩酸メクロフェノキサート	1		1	1
222 HA	臭化水素酸デキストロメトトルファン	1			1
222 BJ	プロチン末	1	1		
222 JI	鎮咳祛痰剤 (その他)	1		1	
222 IP	クロベラスチン	1		1	
222 XX		1	1		1
223 JB	総合感冒剤	1	1		
223 JD	消化酵素	2		1	2
223 JI	総合感冒剤	1	1		
223 XX	〃	1		1	
233 JC	健胃消化酵素	2		2	1
233 JE	消化酵素, 制酸, 生薬	1			1
238 ID	酢酸ビスオキサチン	1	1		1
238 JI	下剤・浣腸剤 (その他)	2	2		
238 XX	〃	1	1		
237 CA	タンニン酸アルブミン	1		1	
23 XXX		1			1
239 IA	メトクロプラミド	1	1		
244 BD	トリアムシノロン	1	1		
247 CA	エストリオール	3			3
247 FE	プロゲステロン (カブロン酸・ヒドロキン)	3	2	1	1
247 FF	プロゲステロン	1	1		
247 JI	女性ホルモン配合剤	2	1	1	
247 JM	女性ホルモン配合剤 (注) (カプロ・プロエス)	6	4	1	2
247 JO	〃 (安エス, プロゲ)	2	2	1	
247 JP	〃 (プロゲ, カプロ)	2	1		
247 JQ	〃 (カプロ, 安エス)	1	1		
247 XX	女性ホルモン剤	1			1
255 DE	ナタマイシン (錠剤)	1			1
263 JA	抗生剤入りステロイド軟膏	1			1
312 AB	塩酸チアミン	1		1	
312 BA	プロスルチアミン	2	1	2	2
312 BI	ビスベンチアミン	2		1	2
313 AC	リポフラビン	1		1	1
313 DA	塩酸ビリドキシン	1		1	1
313 DB	リン酸ビリドキサル	7		5	4
313 FA	コバマミド	2			2
313 FC	ヒドロキシコバラミン	2	1	1	2
314 AA	アスコルビン酸	2		2	
315 AA	酢酸トコフェロール	2	1		1
316 JA	複合ビタミン剤 (VB ₁ , VB ₂)	1		1	1
316 JC	〃 (VB ₁ , VB ₂ , VB ₁₂)	3			3
316 JD	〃 (VC, パントチン酸, カルシウム)	4	2	1	2

表3. 薬剤使用状況

薬剤コード (5桁)	薬品名	数	妊 娠 期 間		
			前 期	中 期	後 期
318AB	ミネラル等添加総合ビタミン剤(I)	5	2	4	4
318AE	〃 〃 (II)	8	5	6	3
31XXX	ビタミン剤	2	2	2	2
322CI	乳酸鉄	2		1	2
322CL	フマル酸第一鉄	3		2	3
322CB	オロチン酸第一鉄	2	1	1	2
322CK	硫酸鉄	4		2	3
322CS	含糖酸化鉄	1			1
322CX	鉄 剤	7		2	3
322GA		1	1		
323AA	ブドウ糖	4	3	1	
326AA	総合造血剤(肝ぞう製剤)	3	1		2
326JL	〃 (鉄, 葉酸, VB ₁₂ , VC)	1			1
326JJ	〃 (フマル酸第一鉄・ニコチン酸アミド VB ₁ , VB ₂ , VB ₆ , VB ₁₂)	1		1	1
326JT	〃 (マステゲンVB ₂ , VB ₁ , VB ₂ , VC)	2		3	2
326JW	〃 (フマル酸第一鉄)	1			1
326JV	〃 (硫酸鉄, 三酸化モリブデン)	16	1	7	13
328JA		1		1	
328JI				2	
332AA	カルバゾクロムスルホン酸Na	3	2	1	3
394BA		1	1		
391BA	DL-メチオニン	1	1		
391CC	チオクト酸アミド	2	2		1
391JA	アスパラギン酸塩剤	2	1		1
391JB	グリチルリチン・メチオニン・グリシン複合剤	1		1	
391AA	グルクロノラクトン	1		1	
393AB	チオ硫酸ナトリウム	1			1
395AD	酵素製剤(カイモラール)	1			
399IA	グルタチオン	1	1		
615AA	抗生剤(クロラムフェニコール)	1			1
615IA	〃 (デメクロサイクリン)	1			1
621IB	サルファ剤(スルファメチゾール)	1			1
621XX	サルファ剤	2	1		1
629AA	ウイントマイロン	1			1
641EA	硫酸ヒドロキシクロロキン	1			1
821JB	合成麻薬(ベチロルファン)	1	1		
23XXX				1	
61XXX		1	1		
XXXX1		5		1	4
XXXX2		3	4	1	
XXXX3		1	1		
XXXXX		1		1	1

表4. 双胎における先天異常の分布 (106組)

先天異常	例数
そけいヘルニア	12
斜頸	4
血管腫	4
先天股脱	4
停留辜丸	2
脳性小児麻痺	2
内反足	2
難聴	2
水頭症	2
斜視	2
色素性母斑	1
白斑	1
獣皮様母斑	1
ロート胸	1
横隔膜ヘルニア	1
ポタロー氏管開存	1
先天性耳瘻	1
幽門狭窄症	1
膀胱尿管逆流	1
尿道狭	1

表5. 双胎と先天異常の分布

(106組)

	区分	先天異常		
		№	第1子	第2子
薬剤を服用した群 (83)	I (7)	1.	そけいヘルニア(♂)	斜視
		2.	内反足	内反足
		3.	斜視	先天股脱
		4.	そけいヘルニア(♀) 先天性耳瘻	そけいヘルニア(♂)
		5.	血管腫(海綿状)	血管腫(単純)
		6.	難聴	難聴
		7.	斜視	斜頸
	II (9)	1.	そけいヘルニア(♂)	/
		2.	そけいヘルニア(♀)	
		3.	先天股脱	
		4.	停留辜丸	
		5.	横隔膜ヘルニア	
		6.	脳性小児麻痺 ・斜視	
		7.	血管腫(海綿状)	
		8.	そけいヘルニア(♀)	
		9.	水頭症	
	III (8)	1.	/	水頭症
		2.		そけいヘルニア(♂)
		3.		幽門狭窄症
		4.		ロート胸
		5.		先天股脱
		6.		停留辜丸
		7.		獣皮様母斑
		8.		斜頸
IV (59)				
薬剤を服用しない群 (23)	I (3)	1.	白斑	色素性母斑
		2.	そけいヘルニア(♂)	そけいヘルニア(♂)
		3.	膀胱尿管逆流 尿道狭窄	そけいヘルニア(♂)
	II (4)	1.	脳性小児麻痺	/
		2.	そけいヘルニア(♂)	
		3.	血管腫(海綿状) そけいヘルニア(♂)	
		4.	先天股脱	
	III (1)	1.		ポタロー氏管開存
	IV (15)			

表6. 代表的な先天異常の薬剤使用状況

そけいヘルニア(12名)

薬剤コード (5ケタ)	薬品名	妊娠期間		
		前期	中期	後期
213 EG	利尿剤(ヒドロクロチアジド)	1		2
213 IH	利尿剤(フロセミド)			2
214 IH	血圧降下剤(重酒石酸・ベントリニウム)			1
214 JI	血圧降下剤(配合剤)			1
219 IQ	ズファジラン			1
222 XX	鎮咳祛痰剤			
312 AB	ビタミンB ₁ 剤(塩酸チアミン)		1	
313 DB	ビタミンB剤(リン酸ピリドキサル)	1		
314 AA	アスコルビン酸		1	
318 AE	ミネラル等添加総合ビタミン剤		1	
319 AA	その他のビタミン剤(マミゲン末)		1	
322 CK	無機質製剤(硫酸鉄)		1	
323 AA	ブドウ糖製剤		1	
393 AB	チオ硫酸ナトリウム		1	
395 AD	トリプシン製剤			1
621 XX	抗生物質	1		
XXXX1				1

B-4. 黄疸の発現状況

神奈川県立栄養短期大学

須川 豊

厚生省地域保健課

湯沢 布矢子

双胎児の黄疸について単胎児と比較した。しかし双胎児は数が少ないので、観察項目によっては、単胎児と合算して検討したものもある。

1 黄疸の発現

表1に示すように、記入のあるもののみで、単胎児は98.9%が発現しており、双胎児は多少低率のようにみえる。

2 黄疸発現の初日

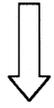
表2に示すように、単胎児では、80%近くが、

2日目と3日目で、双胎児では、3日目が最も多く、単胎児の2日目とくらべて1日おそいようにみえる。

3 総ビリルビン値

測定され記載されているものは、単胎児2,945人、双胎児48人で、その値の分布は表3に示すようである。

9mg/dℓ以下が、単胎児では43.0%をしめる1,265人であるのにくらべて、双胎児は28人で、58.3%をしめている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



- A 妊娠期間中の薬剤服用状況について
- B 双胎と先天異常